

経営比較分析表

埼玉県 川越市

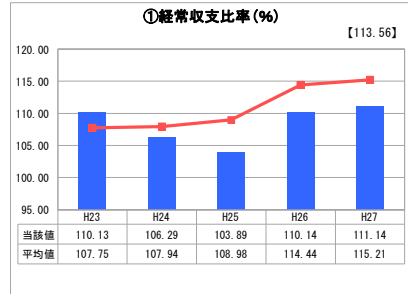
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	79.96	99.98	2,106

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
350,223	109.13	3,209.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
350,394	109.13	3,210.79

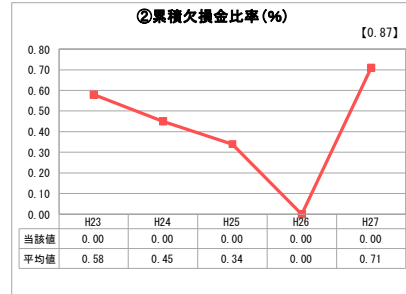
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

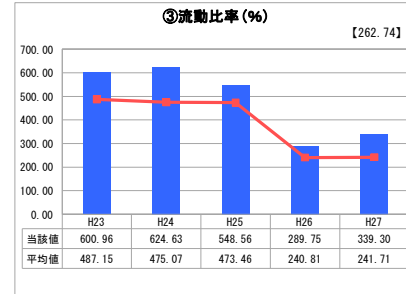
1. 経営の健全性・効率性



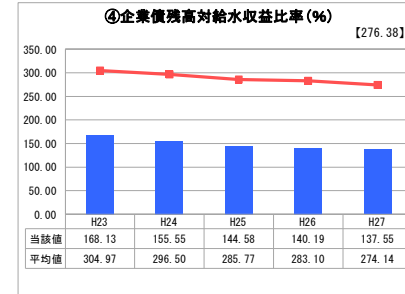
「経常損益」



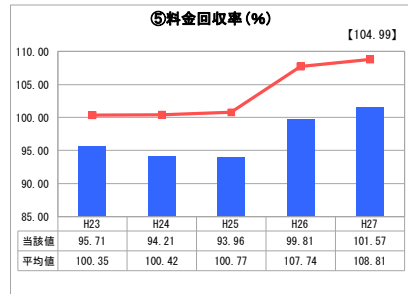
「累積欠損」



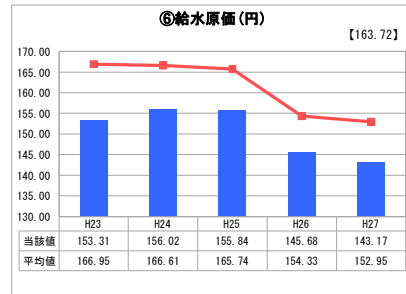
「支払能力」



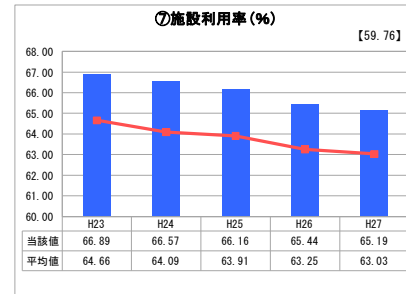
「債務残高」



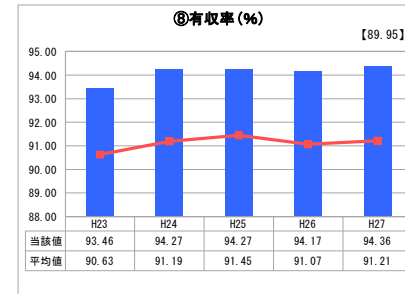
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

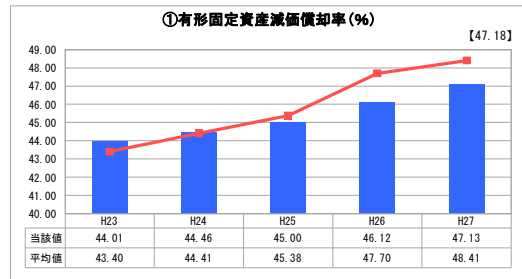


「施設の効率性」

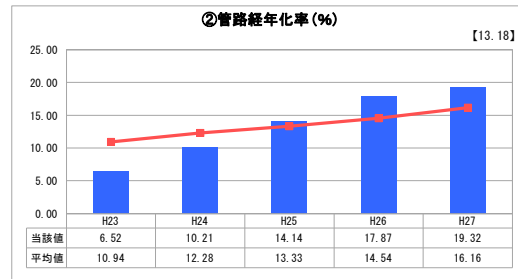


「供給した配水量の効率性」

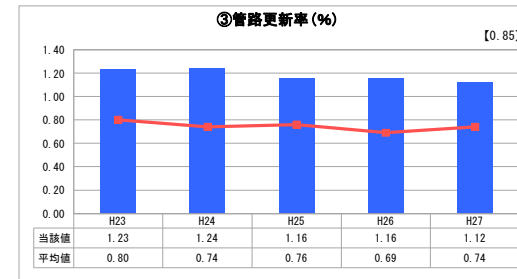
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
100%を上回り、黒字ではありますが、類似団体と比較すると低い水準になっています。
- ②流動比率
100%を大きく上回り、かつ類似団体と比較しても高い水準です。
- ④企業債残高対給水収益比率
類似団体と比較して低い数値に抑えられています。将来負担が少なくなっていると言えますが、必要な更新事業を行っているか検証する必要があります。
- ⑤料金回収率
平成27年度は幸うじて100%を上回りましたが、今後は大規模修繕を控えているため、適正な供給単価について検討する必要があります。
- ⑥給水原価
類似団体と比較して低い数値に抑えられています。費用のうち約4割は県水購入費であるため、購入単価の見直しがあると、数値に大きく影響することになります。
- ⑦施設利用率
類似団体と比較して高い数値ですが、下降傾向が見られるため、将来的には施設のダウンサイジングも検討する必要があります。
- ⑧有収率
類似団体と比較し94%前後と高い数値で安定しており、上昇傾向にあります。今後も漏水調査や老朽管更新等を計画的に続けていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
類似団体との比較では同程度、かつ増加傾向にあります。計画的な償却対象資産の更新が必要ですよ。
- ②管路経年化率
類似団体と比較して増加の速度が速く、今後も増加が見込まれることから、計画的かつ早急な管路の更新が必要です。
- ③管路更新率
類似団体と比較すると更新率は高いですが、今後も②管路経年化率の増加が見込まれることから、さらに更新スピードを上げる必要があります。

全体総括

全体的に経営の健全性は保たれており、類似団体と比較しても経営状況は概ね良好であると言えます。しかし、管路や保有資産の老朽化が進んでいるため、計画的な更新が必要です。また、施設のダウンサイジングや適正な供給単価について、検討を進める必要があります。

※ 「1. 経営の健全性・効率性について」の①③⑤⑥における平成26年度の指標は、会計基準の見直しによる影響により大きく変動しています。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。